

# 教えて！ドクター

## 加齢による眼病（白内障）編 Vol.1

目のかすみは老眼だけではありません。  
40代から発症する白内障。

### 白内障は、目の中の 水晶体が濁る病気です

加齢により眼の健康が損なわれる加齢性眼疾患は数多く、中でも代表的な疾患が白内障です。白内障の多くは、シワや白髪のように、加齢とともに現れる老化現象のひとつですが、糖尿病、アトピー、外傷の合併症として若い人の発症もあります。

白内障は様々な原因で起こりますが、加齢が原因で見られる白内障のことを、「加齢性白内障」または「老人性白内障」といいます。早い方は40歳代で見つかり、年齢とともに発症が増えるため、70歳代では80%、80歳代ではほぼ100%確認されます。進行すると視力低下により日常生活に支障をきたすようになります。

白内障は、眼の中にある水晶体が白く濁る病気です。水晶体が濁ると光がうまく通過できなくなったり、光が乱反射して物がかすんで見えるのです。カメラのレンズが曇ると、写真がうま



医学博士 川久保 洋 先生

1959年生まれ。川久保眼科院長  
さいたま市立病院眼科医長  
駿河台日大病院眼科外来医長を経て、現在に至る。  
現在、駿河台日大病院眼科兼任講師

く写らないのと同じです。水晶体は、蛋白質33%、水66%、ミネラル1%で構成されていますが、この透明な蛋白質は、老化に加え、外界の誘発因子（紫外線など）により蛋白質が変性され、水晶体が黄色に着色してきます。

残念ながら、一度濁った水晶体は元のような透明な水晶体にはなりません。

### 白内障の治療方法

加齢性白内障は、発症、程度に多少左右に差はありますが、ほとんどの場合両眼に起こってきます。症状としては、光が眩しく明るい所で物が見えにくい。かすんだように見える。二重三重に見えるなどです。

濁った水晶体を元に戻すことはできませんので、白内障の症状が出た場合、早い段階からの治療が大切です。なにもせずに、長い間放置しておくとも眼底が見えなくなり、他の眼病を見逃されたり、視力不良になると廃用性外斜視（目が外に向く）になりますので注

意が必要です。

治療法としては、水晶体の濁りの進行を遅延させる点眼薬を使用します。しかし、根本的に治療するためには、手術が必要です。現在一般的に行なわれている手術は、水晶体を超音波で砕きながら吸引し、その後、眼内レンズ（人工水晶体）を挿入する方法です。30分ほどで終了し、日帰り手術も可能ですが、術後の経過を観察する必要がありますので通院が必要です。

目のかすみは白内障のサインです。適切な眼鏡をかけても、見え方に変化がないようであれば白内障の疑いがあります。早めに受診して下さい。

#### 白内障の自覚症状

- かすんでみえる
- ぼやける
- 屋外で、光がまぶしくて見にくい
- 逆光がまぶしくて対象が見えない
- 夜間の車のヘッドライトがまぶしい
- メガネを調整しても文字などが読みにくい
- 二重、三重にみえる
- 暗くなると見えにくくなる
- 目が疲れやすい
- 裸眼の視力や矯正視力が不安定
- 色の鮮やかさがない

監修・・・川久保眼科 院長 川久保洋

## 川久保眼科

眼科、日帰り白内障手術、オルソ・ケラトロジー（角膜矯正療法）、コンタクトレンズの処方



※JR京浜東北線浦和駅東口よりバス10分。「太田窪」バス停徒歩2分。

- 診療時間 午前 9:00～12:00 午後 14:00～18:00
- 休診日 日曜祝日、土曜午後、および第1・2金曜日午後

### 川久保眼科

〒336-0936 さいたま市緑区太田窪3-8-3-2F  
TEL: 048-885-5422 FAX: 048-885-5422 kawakuboeye.webmedipr.jp